

静岡トレセン U12 韓国遠征振り返り

静岡トレセンコーチ
杉浦 理

今回の韓国遠征の実施にあたり、多大なるご協力をいただいた関係各所の皆様に深く感謝申し上げます。

この遠征期間において選手たちはピッチ内のみではなくピッチ外でも成長が見られました。

ピッチ外においては、言葉が通じない環境の中で自分の要求をどのようにするのかを考えるきっかけとなりました。最初のうちは同行した大人にどうしたらよいのか？と問いかける場面が多くありましたが、次第に同行した大人に頼るのではなく、自分たちで考えて対処しようと試みていました。また、団体行動としての時間を守ることにしても、大人が声掛けをする前に自分たちで行動を起こすことができていました。

ピッチ内では自分の長所を試合の中で出すにはどうしたらよいのかを問いかけ試合に望みました。最初は相手のプレー強度に圧倒され、ただ頑張るだけのプレーが目立ちましたが、試合を重ねるにつれて徐々に自分の特徴を出せる選手も出てきました。攻撃面においては、相手の背後を狙う意識が出てきたことと、ワンタッチプレーも増えたことでチャンスが多く作ることができました。失点の場面はボールを奪い攻撃に出ようとした際にパスをカットされ、背後のスペースを突かれる場面が多かったです。これは、パススピードが遅いことと、ボールを奪ったときに余裕がなく苦し紛れに中途半端なプレーをすることが原因だと思いました。

韓国の選手は寄せが早く球際が強い選手が多くいました。また、スピードのある選手が自ら突破を試みるなど、個の力をチームの中で発揮する選手も多くいました。そのようなチームとの試合をすることで選手たちは試合の中で攻守においてやらなければいけない事を理解することと、プレーを予測して準備したりするという事ができるようになってきました。

選手たちには、今回の遠征で学んだことを継続し、常に自分の力を発揮できるようになってもらいたいと感じました。